授業科目	社会的養護Ⅰ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	山根　正夫						
授業概要	子どもたちは未来の社会を創造する大切な存在です。しかしながら児童虐待など子どもの問題も深刻化・顕在化しており、それに伴い社会的な養育の必要性が謳われている。いかなる環境で育っている子どもであっても人格が尊重され、子どもの最善の利益に基づいて、その健やかな育ちが等しく確実に保障される必要がある。社会的養育を巡っては子どものニーズに応じた養育の提供や施設の改革などの着実な推進に向けてロードマップは示されているが、この授業ではこれらの点について学習し、社会的養育を必要とする子どもと家族を支援していくための、社会の変化を踏まえて、その理念、制度、方法などの基本的内容を理解できるよう実務家教員としての経験を踏まえて内容が構成されている。						
授業形態	講義			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1　現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解している。 2　子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解している。 3　社会的養護の制度や実施体系等について理解している。 4　社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解している。 5　社会的養護の現状と課題について理解している。 上記目標について概ね理解している。定期試験で 70%に到達できること。
理想的レベル	j 標準的な目標に加えて、社会的養護について十分な知識があり、また実際の課題解決に向けて思考することができる。定期試験の結果で 90%理解ができていること。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	100%	
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	WE21602J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
テキスト該当箇所を予め通読しておくこと	4

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：授業についての概観 ー社会的養護とは何かその現代的課題と基本理念について解説する。

第 2 回	社会的養護の歴史的変遷 ー欧米や我が国の社会的養護に係る歴史について概要を解説する。
第 3 回	子どもの人権擁護と社会的養護 ー子どもの人権およびその権利について生成過程を含めて解説する。
第 4 回	社会的養護の基本原則 ー社会的養護とはどうあるべきかその基本的理念と原理について解説する。
第 5 回	社会的養護における専門職 ー社会的養護を支える専門職の倫理と責務について解説する。
第 6 回	社会的養護に関する制度や法体系 ー社会的養護に係るその他の法体系について解説する。
第 7 回	社会的養護の仕組みと実施体系 ー社会的養護に係る公的機関の役割及び相談・援助の中核的な機能を果たす児童相談所等について解説する。
第 8 回	社会的養護の対象と支援の在り方 ー社会的養護の対象と現状及びソーシャルワークについて解説する。
第 9 回	社会的養護の対象と支援のあり方 ー措置制度及び乳児院・児童養護施設などの児童福祉施設の現状・機能・実際について解説する。
第 10 回	社会的養護と支援の在り方 ー施設養護と里親などの家庭養護について解説する。
第 11 回	社会的養護に関わる専門職 ー専門職の職務内容・役割について解説する。
第 12 回	今日の社会的養護に関する社会的状況 ー現代社会における養護問題今後の方向性等について解説する。
第 13 回	施設等の運営管理の現状と課題 －児童福祉に関わる運営管理等につて解説する。
第 14 回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題 ー被措置児童等の虐待の防止についての現状と課題について解説する。
第 15 回	社会的養護と地域福祉・全体のまとめ ー社会的養護に関連する地域での課題を整理し、社会的養護Ⅰ全体について総括する。
テキスト	相澤・林編集(2023)　社会的養護Ⅰ　第 2 版　中央法規
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業の中で適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	特になし。

学生へのメッセージ・コメント	2年次の児童・家庭福祉で学んだ内容について復習して授業に参加してして下さい。 社会的養護Ⅱにつながるものとしてこの授業内容を標準的レベル以上に理解しておくことが求められます。 社会的養護を必要とした子どもたちの語りをまとめた文献等を読み、現状と課題だけでなく、その心情に配慮した養育のあり方についても思考の範囲をを広げてほしい。